

#### ④ 学校における合理的配慮の観点（障がい種別ごと）

本資料は、文部科学省「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）別表」を参考に作成したものです。  
下線部は愛媛県総合教育センターにおいて追加しました。

- ◆ここに示されているものは、あくまで例であり、これ以外は「合理的配慮」として提供する必要がないということではありません。
- ◆複数の障がいを併せ有する場合には、各障がい種別に例示している「合理的配慮」を柔軟に組み合わせ検討しましょう。
- ◆記載していない項目についても、「合理的配慮」として提供する必要がないというものではありません。一人一人の障がいの状態や教育的ニーズ等に応じて検討しましょう。

## ④ 学校における合理的配慮の観点（障がい種別ごと） 言語障がい

※文部科学省「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）別表」を参考に作成したものです。下線部は愛媛県総合教育センターにおいて追加しました。

### ①-1-1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮

◎話すことに自信を持ち積極的に学習等に取り組むことができるようにするための発音の指導を行う。

- ・個別指導による発音の指導を行う。
- ・一斉指導では、発音ではなく発言の内容を評価する。等

### ①-1-2 学習内容の変更・調整

◎発音のしにくさ等を考慮した学習内容の変更・調整を行う。

- ・教科書の音読や音楽の合唱等での個別的な指導をする。 ・書くことによる代替を認める。
- ・構音指導を意識した教科指導をする。等

### ①-2-1 情報・コミュニケーション及び教材の配慮

◎発音が不明瞭な場合には、代替手段によるコミュニケーションを行う。

- ・筆談をする。 ・ICT機器を活用する。等

### ①-2-2 学習機会や体験の確保

◎発音等の不明瞭さによる自信の喪失を軽減するために、個別指導の時間を確保し、音読、九九の発音等の指導を行う。

### ①-2-3 心理面・健康面の配慮

◎言語障がい（構音障がい、吃音等）のある幼児児童生徒が集まる交流の機会の情報提供を行う。

### ②-1 専門性のある指導体制の整備

◎特別支援学校（聴覚障がい）のセンター的機能及び言語障がい特別支援学級、通級による指導等の専門性を積極的に活用する。また、言語障がいの専門家（ST等）との連携による指導の充実を図る。

- ・巡回相談や専門家チームを活用する。
- ・定期的にケース会議を持ち、情報共有するとともに必要な合理的配慮について検討を重ねる。等

### ②-2 幼児児童生徒、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮

◎構音障がい、吃音等の理解、本人の心情理解等について、周囲の幼児児童生徒、教職員、保護者への理解啓発に努める。

- ・関係する教職員が集まって情報交換会を行う。 ・保護者対象の研修会を行う。
- ・関係者が集まって支援会議を行う。
- ・教職員や保護者向けの書籍・教材を購入・貸出しをする。等

### ②-3 災害時等の支援体制の整備

◎発語による連絡が難しい場合は、その代替手段により安否を伝える方法等を取り入れた避難訓練を行う。